

【2】

7章演習問題【1】における設計手順の内, (iii) までは同じである. 従って, 演習問題【1】の回答の (iii) に書かれた 0°~3° の操作を実行するために必要な状態について考える.

(iv) =====

ムーア型の順序回路では, 入力の値を次状態の決定にしか利用できないため, ミーリ型の順序回路の状態 st-2 において行ったように, 出力 (reset, enable,  $S_1$ ,  $S_0$ ) の値を入力 ( $q_0$  および zero) の値で決定できない. そのため, 入力の値によって出力が変化する場合, 出力の値毎に別の状態を設ける必要がある. そこで, 次のような状態を考える.

状態 st-0: done = 0 を出力し, 他の出力は 0 でも 1 でもよい (don't care である).  
 start = 1 であれば, 次は状態 st-1 に行き,  
 start = 0 であれば, 次は状態 st-0 に戻る.

状態 st-1: シフトレジスタにデータを入力するため,  $S_1 = 0$ ,  $S_0 = 1$  を出力する. また, アップカウンタを reset するため, reset = 1 を出力する. enable は don't care で, done は 0 である.  
 次は状態 st-2 に行く.

状態 st-2: シフトレジスタもアップカウンタも変化しないよう,  $S_1 = 0$ ,  $S_0 = 0$ , reset = 0, enable = 0 を出力し, done も 0 を出力する.  
 $q_0 = 1$  ならば, 次は状態 st-3 に行き,  
 $q_0 = 0$  ならば, 次は状態 st-4 に行く.

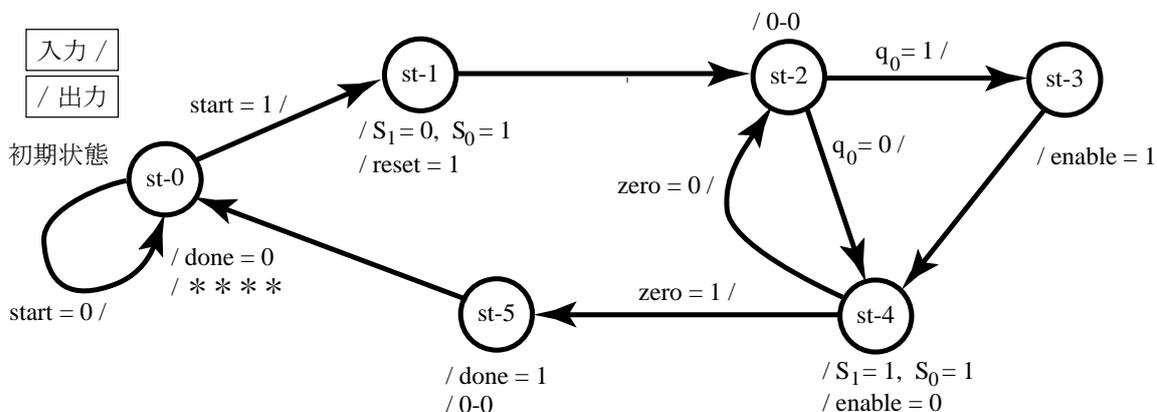
状態 st-3:  $q_0 = 1$  であるので, アップカウンタをカウントアップするため, reset = 0, enable = 1 を出力する. 他の出力は 0 のままである.  
 次は状態 st-4 に行く.

状態 st-4:  $q_0 = 0$  であるから, アップカウンタをカウントアップする必要はない. シフトレジスタを右に 1 ビットシフトするため,  $S_1 = 1$ ,  $S_0 = 1$  を出力し, 他の出力 reset, enable, done は 0 である.  
 zero = 1 であれば, もう数えるべき 1 はないので, 次は状態 st-5 に行く.  
 zero = 0 であれば, 次は状態 st-2 に戻る.

状態 st-5: 入力中の 1 の個数を調べ終わったので, done = 1 を出力し, 他の出力は全て 0 にする.  
 次は状態 st-0 に戻る.

この手順から分かるように, ムーア型の順序回路では, ミーリ型では 1 クロックで行われていた操作 2° が複数クロックで実行されることになる.

このような動作をする順序回路の状態遷移図は下図のようになる. ここで, 出力は入力に依存しないので, 各状態の下に書いてあり, 次状態が入力によって変わらない場合には, 矢印に入力条件を書いていない. また, /0-0 は全ての出力を 0 にすることを, /\*\*\*\* は done 以外の全ての出力が don't care であることを示し, 書かれていない出力はその前の時刻の値を取るものとする.



(v) =====

そこで, 状態変数を導入し, 状態割当を行い, 状態遷移表を作成する.

5つの状態があるので,  $x_1, x_2, x_3$  なる状態変数を用意し, 下記の表の左端にあるように状態割当を行うと, 下の状態遷移表が書ける. ただし, 入力 start に関する場合分けを省いているが, 下記の表は  $start = 1$  の場合である.  $start = 0$  の場合, 現状態が st-0 では, 次状態が  $st-0(x_1' = x_2' = x_3' = 0)$  となり, st-0 以外では, 次状態は don't care となる.

現状態:		次状態: $x_1', x_2', x_3'$							
$x_1, x_2, x_3$	入力	zero=0, $q_0=0$		zero=0, $q_0=1$		zero=1, $q_0=1$		zero=1, $q_0=0$	
st-0	0, 0, 0	st-1	0, 0, 1	st-1	0, 0, 1	st-1	0, 0, 1	st-1	0, 0, 1
st-1	0, 0, 1	st-2	0, 1, 0	st-2	0, 1, 0	st-2	0, 1, 0	st-2	0, 1, 0
st-2	0, 1, 0	st-4	1, 0, 0	st-3	0, 1, 1	st-3	0, 1, 1	st-4	1, 0, 0
st-3	0, 1, 1	st-4	1, 0, 0	st-4	1, 0, 0	st-4	1, 0, 0	st-4	1, 0, 0
st-4	1, 0, 0	st-2	0, 1, 0	st-2	0, 1, 0	st-5	1, 0, 1	st-5	1, 0, 1
st-5	1, 0, 1	st-0	0, 0, 0	st-0	0, 0, 0	st-0	0, 0, 0	st-0	0, 0, 0

一方, 出力表は下記のようになる. ムーア型回路の場合には, 出力は入力に依存せず, 現状態のみの関数となるので, 入力の値による場合分けはしていない.

現状態:		出力				
$x_1, x_2, x_3$		done	$S_1$	$S_0$	Reset	Enable
st-0	0, 0, 0	0	*	*	*	*
st-1	0, 0, 1	0	0	1	1	*
st-2	0, 1, 0	0	0	0	0	0
st-3	0, 1, 1	0	0	0	0	1
st-4	1, 0, 0	0	1	1	0	0
st-5	1, 0, 1	1	0	0	0	0

(vi) =====

$x_1'$ ,  $x_2'$ ,  $x_3'$ , done,  $S_1$ ,  $S_0$ , reset, enable の最簡な論理式を求める.

$x_1'$  および  $x_2'$  は, 下図のようなカルノー図となる.

				zero			
				q <sub>0</sub>			
				0, 0	0, 1	1, 1	1, 0
		0, 0, 0					
		x <sub>3</sub>		0, 0, 1			
		0, 1, 1		1	1	1	1
x <sub>2</sub>		0, 1, 0		1			1
		1, 1, 0		*	*	*	*
x <sub>1</sub>		x <sub>3</sub>		1, 1, 1	*	*	*
		1, 0, 1					
		1, 0, 0				1	1

				zero			
				q <sub>0</sub>			
				0, 0	0, 1	1, 1	1, 0
		0, 0, 0					
		x <sub>3</sub>		0, 0, 1	1	1	1
		0, 1, 1					
x <sub>2</sub>		0, 1, 0			1	1	
		1, 1, 0		*	*	*	*
x <sub>1</sub>		x <sub>3</sub>		1, 1, 1	*	*	*
		1, 0, 1					
		1, 0, 0		1	1		

従って, 次式を得る.

$$x_1' = x_2 \cdot x_3 + x_2 \cdot \overline{q_0} + x_1 \cdot \overline{x_3} \cdot \text{zero}$$

$$x_2' = \overline{x_1} \cdot \overline{x_2} \cdot x_3 + x_2 \cdot \overline{x_3} \cdot q_0 + x_1 \cdot \overline{x_3} \cdot \overline{\text{zero}}$$

$x_3'$  は, 現状態が  $(x_1, x_2, x_3) = (0, 0, 0)$  の場合に, start の値によって次状態の値が変わる. 従って, start の値を書き込むと, 下のようなカルノー図を得る.

				start = 1				start = 0				
				zero								
				q <sub>0</sub>				q <sub>0</sub>				
				0, 0	0, 1	1, 1	1, 0	1, 0	1, 1	0, 1	0, 0	
		x <sub>3</sub>		0, 0, 0	1	1	1	1				
		0, 0, 1						*	*	*	*	
x <sub>2</sub>		0, 1, 1						*	*	*	*	
		0, 1, 0			1	1		*	*	*	*	
x <sub>1</sub>		x <sub>3</sub>		1, 1, 0	*	*	*	*	*	*	*	
		1, 1, 1		*	*	*	*	*	*	*	*	
		x <sub>3</sub>		1, 0, 1				*	*	*	*	
		1, 0, 0				1	1	*	*	*	*	

従って, 次式を得る.

$$x_3' = \overline{x_1} \cdot \overline{x_2} \cdot \overline{x_3} \cdot \text{start} + x_2 \cdot \overline{x_3} \cdot q_0 + x_1 \cdot \overline{x_3} \cdot \text{zero}$$

done は, 上の出力表から分かるように, 状態 st-5, すなわち  $(x_1, x_2, x_3) = (1, 0, 1)$  の場合に 1 にすればよく,  $(x_1, x_2, x_3) = (1, 1, 1)$  は don't care であるから, 次式で書ける.

$$\text{done} = x_1 \cdot x_3$$

$S_1$  および  $S_0$  は, 下図のようなカルノー図となる.

$S_1$				$x_3$
				0
$x_1$	$x_2$	0, 0	*	
		0, 1		
	1, 1	*	*	
	1, 0	1		

$S_0$				$x_3$
				0
		0, 0	*	1
		0, 1		
	1, 1	*	*	
	1, 0	1		

従って, 次式を得る.

$$S_1 = x_1 \cdot \bar{x}_3$$

$$S_0 = \bar{x}_1 \cdot \bar{x}_2 + x_1 \cdot \bar{x}_3$$

reset および enable は, 下図のようなカルノー図となる.

reset				$x_3$
				0
$x_1$	$x_2$	0, 0	*	1
		0, 1		
	1, 1	*	*	
	1, 0			

enable				$x_3$
				0
		0, 0	*	*
		0, 1		1
	1, 1	*	*	
	1, 0			

従って, 次式を得る.

$$\text{reset} = \bar{x}_1 \cdot \bar{x}_2$$

$$\text{enable} = \bar{x}_1 \cdot x_3$$

(vii) =====

以上の式において共通項の共有化を図ると、次式を得る.

$$\text{reset} = \bar{x}_1 \cdot \bar{x}_2 ,$$

$$\text{enable} = \bar{x}_1 \cdot x_3$$

$$S_1 = x_1 \cdot \bar{x}_3 ,$$

$$S_0 = \bar{x}_1 \cdot \bar{x}_2 + x_1 \cdot \bar{x}_3 = \text{reset} + S_1$$

$$C1 = S_1 \cdot \text{zero} ,$$

$$C2 = x_2 \cdot \bar{x}_3 \cdot q_0$$

$$x'_1 = x_2 \cdot x_3 + x_2 \cdot \bar{q}_0 + x_1 \cdot \bar{x}_3 \cdot \text{zero} = x_2 \cdot x_3 + x_2 \cdot \bar{q}_0 + C1$$

$$x'_2 = \bar{x}_1 \cdot \bar{x}_2 \cdot x_3 + x_2 \cdot \bar{x}_3 \cdot q_0 + x_1 \cdot \bar{x}_3 \cdot \bar{\text{zero}} = \text{reset} \cdot x_3 + C2 + S_1 \cdot \bar{\text{zero}}$$

$$x'_3 = \bar{x}_1 \cdot \bar{x}_2 \cdot \bar{x}_3 \cdot \text{start} + x_2 \cdot \bar{x}_3 \cdot q_0 + x_1 \cdot \bar{x}_3 \cdot \text{zero} = \text{reset} \cdot \bar{x}_3 \cdot \text{start} + C2 + C1$$

$$\text{done} = x_1 \cdot x_3$$

これより、下記のようなデータパスと制御回路が合成できる。ここで、制御回路の出力 reset, enable, S<sub>1</sub>, S<sub>0</sub>, done は、状態変数の値 x<sub>1</sub>, x<sub>2</sub>, x<sub>3</sub> だけで決定されているから、この回路はムーア型の順序回路である。

